

高崎市文化財調査報告書第 403 集

井野屋敷添遺跡

—貸事務所建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2018

株式会社シン技術コンサル
高崎市教育委員会

例 言

1. 本書は貸事務所建築工事に伴い実施された、「井野屋敷添遺跡」（高崎市遺跡番号 714）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は、群馬県高崎市井野町字屋敷添 1141 番 1 である。
3. 発掘調査は、平成 29 年 10 月 25 日から平成 29 年 11 月 2 日まで実施した。
4. 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、田中 忍氏から委託を受けた株式会社シン技術コンサルが実施した。
5. 調査体制は以下の通りである。

高崎市教育委員会

矢島 浩

株式会社シン技術コンサル

菊池康一郎（調査担当）、成田巖人（測量担当）

6. 本書の編集は、菊池、馬淵恵美子（シン技術コンサル）が行った。執筆は、第 I 章を矢島、それ以外を菊池が行った。
7. 本調査における図面・写真は、高崎市教育委員会で保管している。
8. 発掘調査参加者については、以下の通りである。（敬称略・五十音順）

<発掘作業参加者>

加藤 勉、柏原高夫、佐藤貞夫、永野吉則、橋爪俊人、福田 充、要田心之輔

凡 例

1. 本書掲載の第 1 図は国土地理院発行 1/50,000 地形図『前橋』・『高崎』・『榛名山』・『富岡』、第 2 図は高崎土地計画基本図 1/2,500、第 3 図は国土地理院発行 1/25,000 の地形図『前橋』を使用した。
2. 遺構平面図に示した方位は座標北であり、水準線は標高を示す。座標については世界測地系に基づく平面直角座標第 IX 系を使用した。
3. 土層および遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所 36 版）による。
4. 本書における遺構種類の略号は、SL= 水田、SJ= 畦畔、SK= 土坑である。
5. 本文・土層注記で表記されるテフラ名を以下に記す。

As-B = 浅間 B 軽石 1108（天仁元）年降下

目 次

例	言	
凡	例	
目	次	
第I章	調査に至る経緯	1
第II章	調査の方法と経過	2
第III章	遺跡の立地と環境	3
	第1節 地理的環境	3
	第2節 歴史的環境	3
第IV章	基本層序	5
第V章	検出された遺構	6
	第1節 水田跡	6
	第2節 その他の遺構	6
第VI章	まとめ	10
写真図版		
報告書抄録		

挿図目次

第1図	井野屋敷添遺跡位置図	1	第4図	基本土層柱状図	5
第2図	調査区位置図	2	第5図	調査区全体図	7
第3図	周辺の遺跡	4	第6図	SJ1～4、SK1	9

写真目次

PL.1	調査区遠景（東から）
	調査区全景（北東から）
PL.2	SL4 足跡・耕作具痕検出（北東から）
	SJ1 検出（北から）
	SJ2 検出（東から）
	SJ2 水口検出（北から）
	SJ3 検出（北から）
	SJ4 検出（西から）
	SK1 完掘（南から）
	作業風景

第 I 章 調査に至る経緯

平成 29 年 7 月、土地所有者および施工責任者である田中良明氏と田中忍氏から、高崎市井野町において計画している貸事務所建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は井野 10 - 1 遺跡内に所在し、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 7 月 24 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年 8 月 30 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、平安時代の水田跡と水田に伴う畦畔を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。同年 10 月 10 日に文化財保護法に基づく届出が提出された。なお遺跡名については「井野屋敷添遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 29 年 10 月 11 日に田中忍氏と民間調査機関株式会社シン技術コンサル北関東支店との間で契約を締結、また同日に田中忍氏・株式会社シン技術コンサル北関東支店・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。



第 1 図 井野屋敷添遺跡位置図

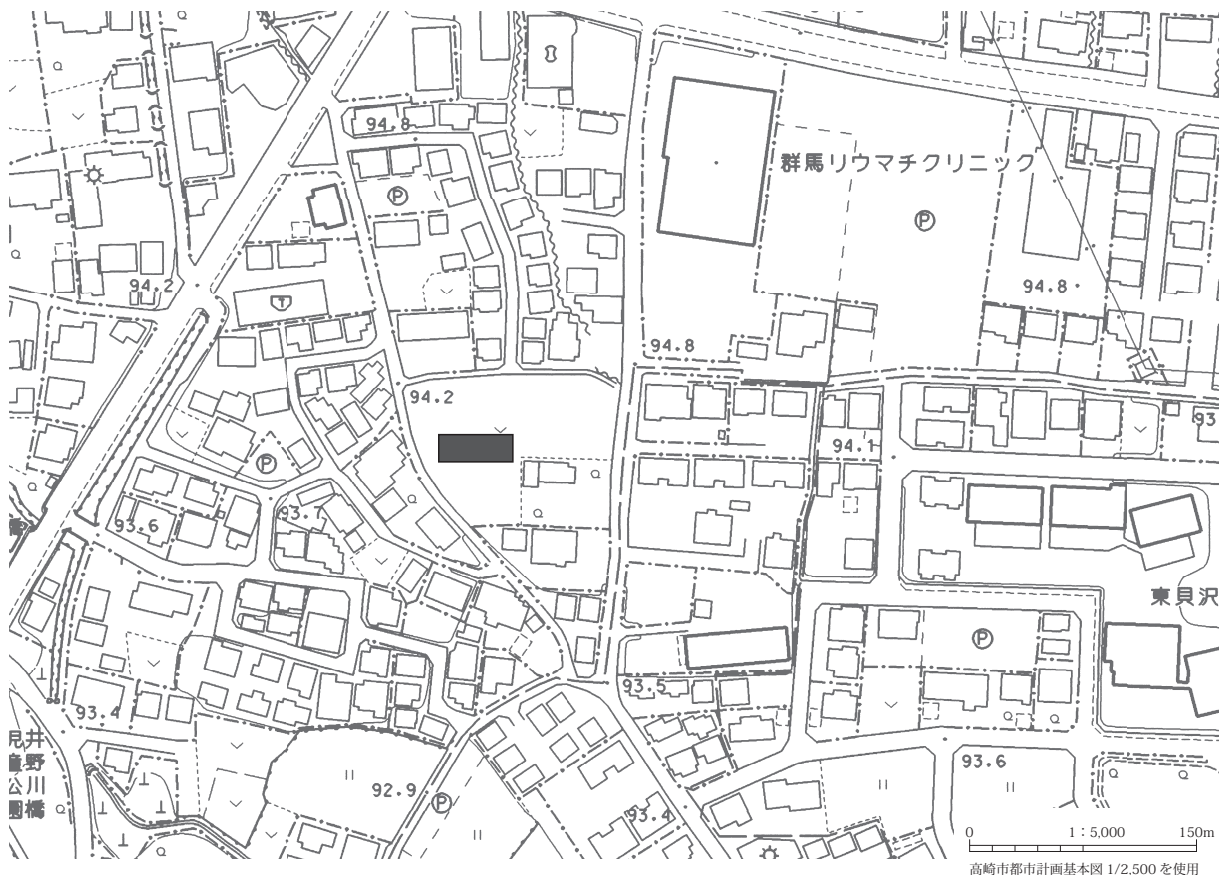
第Ⅱ章 調査の方法と経過

今回の発掘調査は、工事予定地のうち、試掘調査で遺跡が確認された 198㎡を調査対象とした。調査は、まず重機によって As-B 面まで掘り下げ、その後ジョレンなどを用いて人力で As-B を除去し、水田面の検出・遺構確認を行った。遺構確認の結果、平安時代の水田跡のほか、土坑 1 基を検出した。

水田跡は、移植ゴテなどを使用して As-B を除去し、畦畔の起伏や足跡・耕作具痕の検出に努めた。検出された水田跡・土坑は、計測・写真撮影による記録を行った。作図作業は、トータルステーションを用いた器械測量と写真測量を併用した。写真記録は、35mm モノクロネガ・同カラーリバーサル の 2 種類のフィルムを使用し、2020 万画素の小型デジタル一眼レフカメラを併用した。水田面の調査終了後、高所作業車を使用して全景撮影を実施した。全ての調査が終了した後、高崎市教育委員会の終了確認を受け、現地調査を終了した。調査の経過は、以下に掲げる。

平成 29 年

- 10 月 25 日 機材搬入、基準点測量。
- 10 月 26 日 重機による表土掘削。
- 10 月 27 日 人力による掘削開始。As-B 下水田面検出作業。
- 11 月 1 日 土坑調査。
- 11 月 2 日 As-B 下水田掘削面検出終了。全景撮影。測量作業。機材撤収。
- 11 月 4 日 高崎市教育委員会による現地調査の終了確認。



第 2 図 調査区位置図

第Ⅲ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

高崎市は、榛名山・妙義山をはじめとする群馬県西部の山々を背後に、関東平野の北西奥部に位置する。市内には浅間隠山・鼻曲山を水源とする烏川が、碓井川・鐺川・井野川などの支流を集めながら北西から南東方向に流れ、玉村町・伊勢崎市域で利根川と合流する。高崎市の地形をみると、烏川右岸には八幡台地・観音山丘陵、左岸には相馬ヶ原扇状地末端の沖積地、その南に前橋台地が広がっている。そして、碓井川・烏川・井野川流域には、河川の浸食によって、小規模な低地と微高地が入り組んだ地形が形成されている。

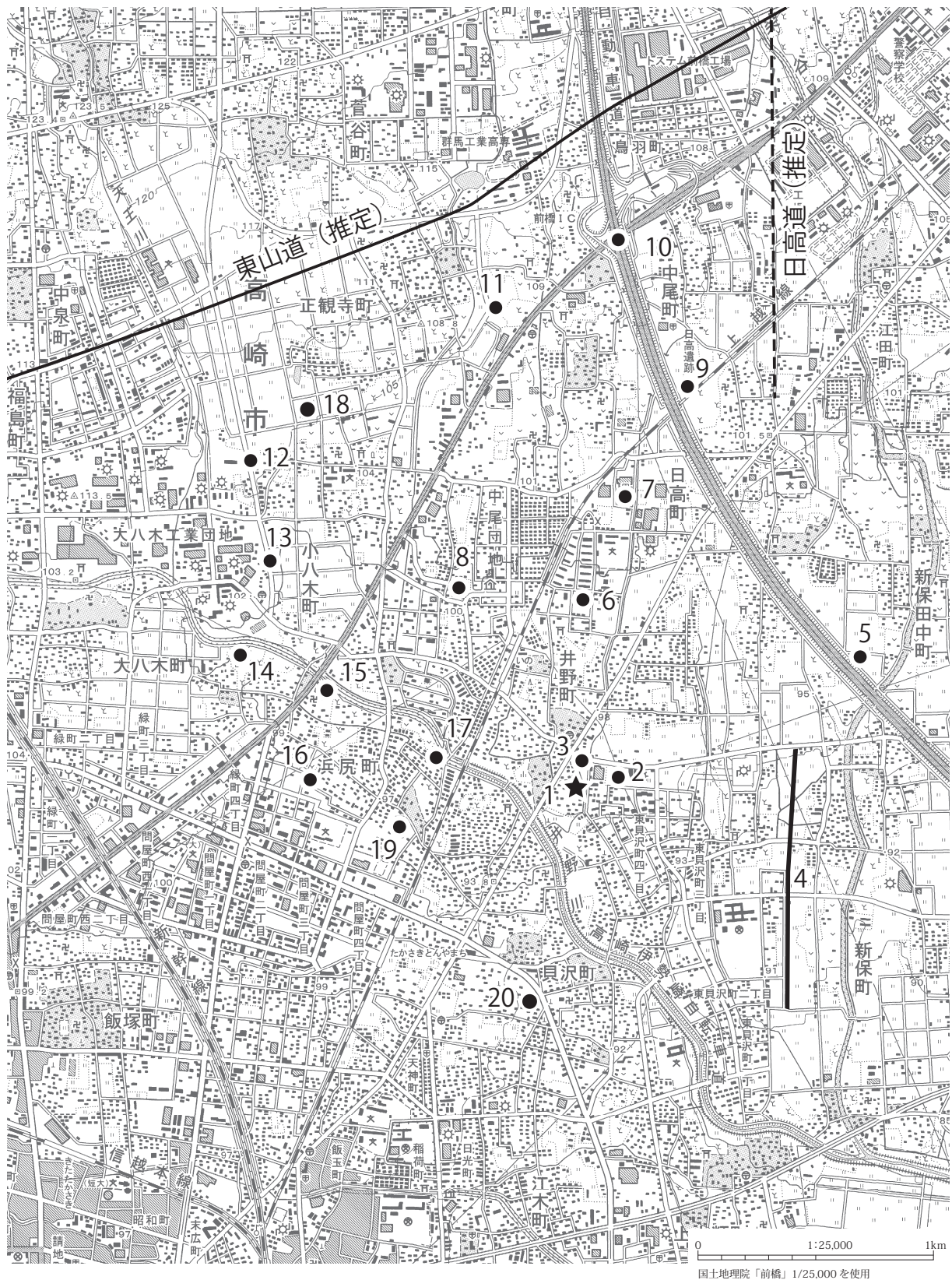
本遺跡が所在する井野町は前橋台地北西部にあたり、扇状地から台地へと移行する地点でもある。遺跡は、井野川左岸の後背湿地に位置しており、南西 220 m には井野川が、東 1.2km には染谷川が流れている。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺では、旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代の遺跡は、井野高縄遺跡 2 (8) で竪穴住居跡が 1 軒検出されているのみである。弥生時代になると遺跡数は増加し、正観寺遺跡 (11)、小八木遺跡 (13)、浜尻 A・B 地点遺跡 (15・16)、浜尻旭貝戸遺跡 (17) などで集落や方形周溝墓などが確認されている。生産遺跡としては、新保遺跡 (4)、新保田中村前遺跡 I (5)、中尾村前遺跡 (7) などで As-C 下水田跡が検出されている。井野・天水遺跡 (2) では、同じ As-C 下から水田の可能性のある畦畔状遺構や 2 条の平行する溝などが検出されている。

古墳時代になると更に遺跡数は増加し、正観寺遺跡、浜尻遺跡、浜尻旭貝戸遺跡、井野高縄遺跡 2 などで集落が確認されている。本遺跡の西から南にかけては、円墳である権現塚古墳や前方後円墳である浜尻天王山古墳 (19) や五霊神社古墳 (20) などが分布している。

奈良・平安時代になると前橋市元総社町付近に上野国府 (推定) が築かれ、本遺跡の北には東山道 (推定) や日高道 (推定) などの古代幹線道路が整備されていた。新保遺跡や中尾遺跡 (10) では大規模な集落が確認されているほか、井野屋敷前遺跡 (3)、井野矢ノ上遺跡 (6)、正観寺遺跡、井野・天水遺跡などでは As-B 下水田が検出されている。

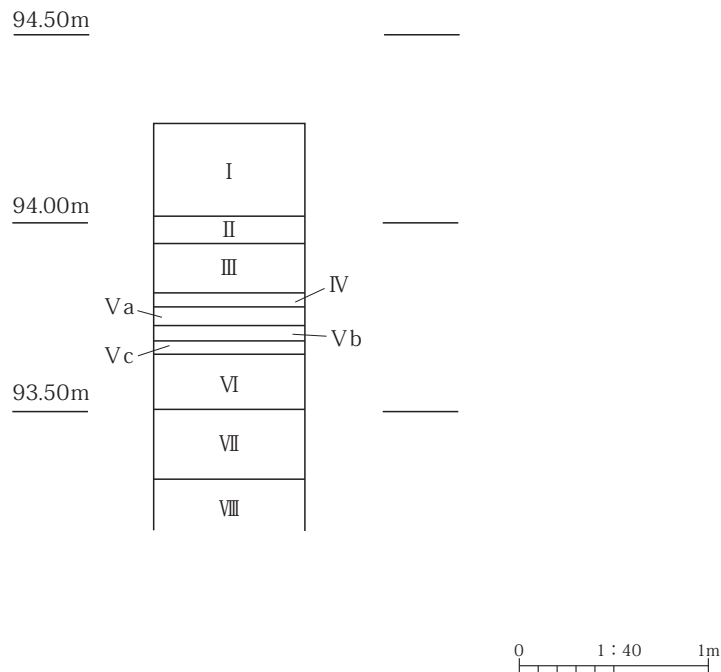


- 1 井野屋敷添遺跡 2 井野・天水遺跡 3 井野屋敷前遺跡 4 新保遺跡 5 新保田中村前遺跡 I
- 6 井野矢ノ上遺跡 7 中尾村前遺跡 8 井野高縄遺跡 9 日高遺跡 10 中尾遺跡 11 正観寺遺跡
- 12 小八木志貝戸遺跡群 13 小八木遺跡 14 井野川遺跡 15 浜尻 A 地点遺跡 16 浜尻 B 地点遺跡
- 17 浜尻旭貝戸遺跡 18 権現塚古墳 19 浜尻天王山古墳 20 五霊神社古墳

第3図 周辺の遺跡

第IV章 基本層序

本遺跡では、I～Ⅷ層の基本土層を確認した。I・II層は現代の整地層、Ⅲ層はAs-Aを含む土層、IV層はAs-Bを多く含む土層である。V層はAs-B層で、3層に細分される。V a層はAs-Bの再堆積と思われるもので、調査区南東付近でのみ確認された。V b層は、攪拌され、やや酸化したAs-B層である。調査区中央から西側で確認された。V c層はAs-B純層である。調査区全域で確認されたが、東端ではV b層とV c層がやや攪拌されたような状況を呈していた。VI層はAs-B下水田の耕作土、Ⅶ層は酸化した土を多く含むシルト質土、Ⅷ層は泥流層の漸移層である。SK1の壁面を観察すると、Ⅷ層の下位に浅黄橙色シルトの泥流層が堆積していた。



I	碎石層	表土。駐車場整地層。縮まり強、粘性弱。
II	褐色 (10YR4/4)	As-A を少量含む。縮まり強、粘性弱。
III	明褐色 (7.5YR5/6)	As-A を中量含む。縮まりあり、粘性弱。
IV	明褐色 (7.5YR5/6)	As-B を多量含む。縮まりやや弱、粘性弱。
V a	褐灰色 (10YR6/1)	As-B 再堆積層。縮まり・粘性弱。
V b	暗褐色 (7.5YR3/3)	As-B が攪拌され、酸化した層。縮まり・粘性弱。
V c	褐灰色 (10YR6/1)	As-B 純層。縮まり・粘性弱。
VI	黒褐色 (5YR3/1)	シルト質土。縮まりやや弱、粘性強。水田耕作土。
VII	黒褐色 (10YR2/2)	シルト質土。縮まりあり、粘性強。酸化した土を多量含む。
VIII	褐灰色 (10YR4/1)	シルト質土。縮まりあり、粘性やや強。浅黄橙色シルトを少量含む。

第4図 基本土層柱状図

第V章 検出された遺構

本遺跡で検出された遺構は、As-B 下水田跡 1 面、土坑 1 基であった。

第1節 水田跡

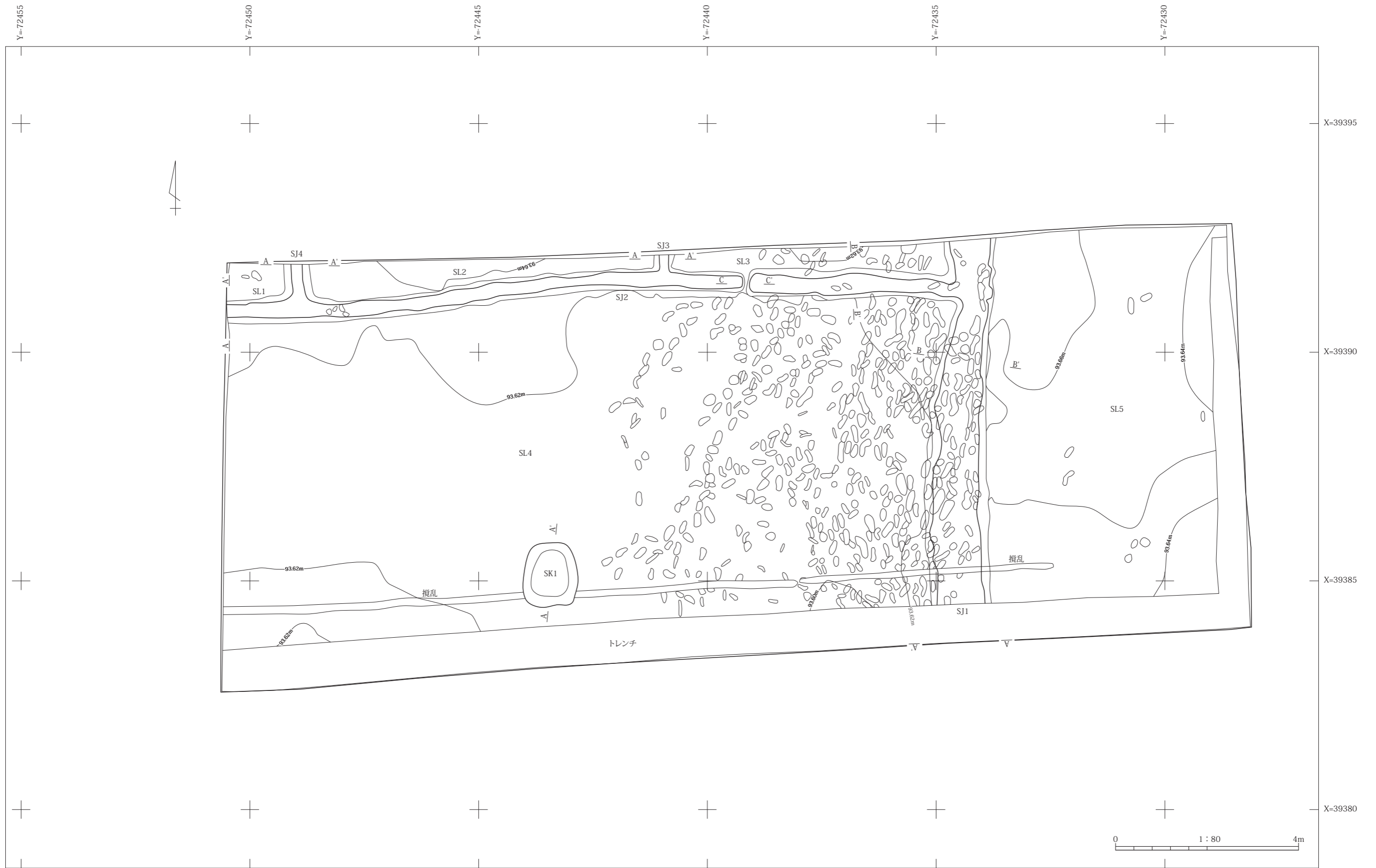
As-B 直下において、4 本の畦畔 (SJ1 ~ 4) によって区画された水田 5 枚 (SL1 ~ 5) を確認した。水田面の標高は 93.6 m 前後であるが、調査区が狭小であったため傾斜は不明である。

SJ1 は上幅 0.6 ~ 1.05 m、下幅 0.8 ~ 1.3 m、高さ 0.07m 前後の、ほぼ座標南北方向の畦畔である。畦畔の西側は足跡・耕作具痕によって荒らされているが、東側は直線状に本来の姿を留めている。他の畦畔に比べて幅が広いことと、座標南北方向に直線的に構築されていることから、大畦畔 (坪境畦畔) であると思われる。SJ2 は上幅 0.25 ~ 0.45 m、下幅 0.4 ~ 0.65 m、高さ 0.04 ~ 0.06m の、緩やかに蛇行する東西方向の畦畔である。SJ1-3 間に、幅 0.2 m ほどの幅の狭い水口が確認された。SJ3・4 は、SJ2 の北側で確認された南北方向の畦畔である。SJ3 の規模は、上幅 0.2 m、下幅 0.45 m、高さ 0.02 m である。SI4 の規模は、上幅 0.25 m、下幅 0.55 m、高さ 0.03 ~ 0.05 m である。

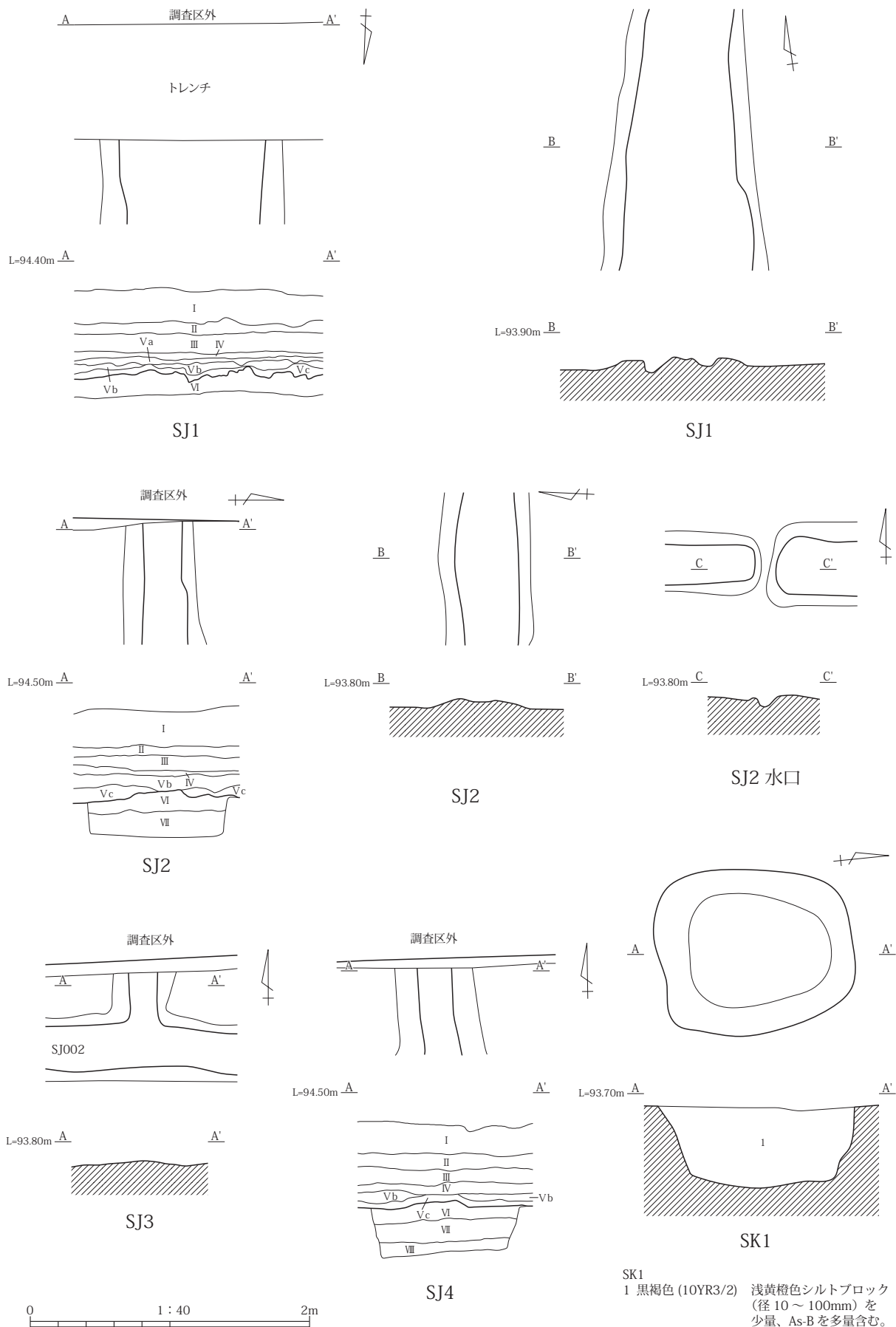
水田は 5 枚確認されたが、全体像を確認できたものはない。確認できた範囲では、SL2 は東西 7.5 m、SL3 は東西 6.0 m、SL4 は東西 16 m 以上、南北 8 m 以上である。SJ2 の南北で、区画の仕方が異なっているのが特徴である。SL5 は東西 5.6 m 以上、南北 8.9 m 以上であり、SJ1 の東西でも区画の仕方が異なっている。SL4 の東半では、足跡や耕作具よるものと推測される、深さ 4 ~ 7cm 程度の凹凸が多数確認された。この凹凸は、東へいくほど密度が高くなるが、SJ1 より東側では確認されなかった。

第2節 その他の遺構

本遺跡では、As-B 下水田跡の他に、土坑が 1 基検出された。SK1 は長軸 1.4 m、短軸 1.2 m、深さ 0.58 m の楕円形ないし隅丸長方形の土坑である。遺物が出土していないので、遺構の性格は不明である。遺構覆土には As-B が多く含まれていることから、V 層上面ないし IV 層上面で掘削された中世以降の土坑と考えられる。



第5図 調査区全体図



第6図 SJ1 ~ 4、SK1

第Ⅵ章 まとめ

今回の発掘調査では、平安時代の水田跡と中世以降の土坑が検出されたが、本章では水田跡について記述する。1108（天仁元）年に降下したAs-Bに被覆された遺構としては、畦畔4条（SJ1～4）と水田5面（SL1～5）が確認された。SJ1は走行方向や規模などから、大畦畔と考えられる。群馬県史の付図では、高崎市内の条里が推定されている。井野町では、本遺跡の東側を南北に走る道路のやや東側に、南北方向の条里（E43）が推定されている。SJ1は、E43条里から120m程西に位置していることから、概ね条里に合致するといえる。本遺跡周辺では、井野屋敷前遺跡や井野・天水遺跡が調査されているが、大畦畔が検出されたのは今回の調査が初めてである。

1町四方に区画された土地を「坪」と呼ぶが、井野屋敷添遺跡の坪の中はどのように区画されていたのであろうか。条里制における土地区画には、1坪を幅6間（約10.9m）で10等分する長地型と、幅12間（21.8m）で5等分する半折型がある。SL2の東西幅が約7.5m、SL3の東西幅が約6mであることから、SL2より北側は長地型に近い区画がなされていたと思われる。しかし一方で、SL4は南北幅約8m以上、東西幅約15.5m以上であることから、同じ坪の中で長地型と半折型が混在していた可能性がある。また、SJ1の東側で東西方向の畦畔が確認されていないことから、SJ1の東西で区画の仕方が異なっていた可能性もある。

今回検出された水田跡に見られた特徴としては、無数の足跡・耕作具痕によってSJ1が荒らされていたことがあげられる。SJ1は、検出幅は0.8～1.3mと広いものの、足跡などの影響で高さが0.07mと低い。これでは、SL4・5に水を湛えることは難しかったと思われ、この2面に関しては休耕田であった可能性が高い。SL1～3に関しては、検出面積が狭いことから、実際に水田として機能していたかどうかは不明である。近隣の井野・天水遺跡では、水田面や畦畔を黒色粘質土が覆っていたことから、As-B降下以前には水田経営が放棄され、周囲は荒廢地となっていたと推測されている。本遺跡では、井野・天水遺跡で見られたような黒色粘質土は確認できていないが、大畦畔が荒らされていたことから、同様の状況であった可能性は高い。

井野屋敷添遺跡では、As-Bに被覆された水田跡が検出され、条里地割りに符合すると思われる大畦畔が1条確認された。As-B降下以降の状況については、後世の削平などによって詳細は不明であり、わずかに性格不明のSK1が検出されたのみである。As-B下水田よりも古い時期については、今回の調査区内では水田などの遺構は確認されなかった。前述の井野・天水遺跡では、As-C降下時にまで遡る溝が検出されていることから、本遺跡周辺にも弥生・古墳時代の集落や水田が存在している可能性がある。市街地化が進み、古い景観が失われつつある井野町周辺ではあるが、今後の調査事例の増加によって更なる知見が得られることを期待したい。

主要引用・参考文献

かみつけの里博物館 『1108 浅間山大噴火、中世への胎動』2004

高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 通史編2』1991

高崎市文化財調査報告書第315集 『井野・天水遺跡』2012 高崎市教育委員会

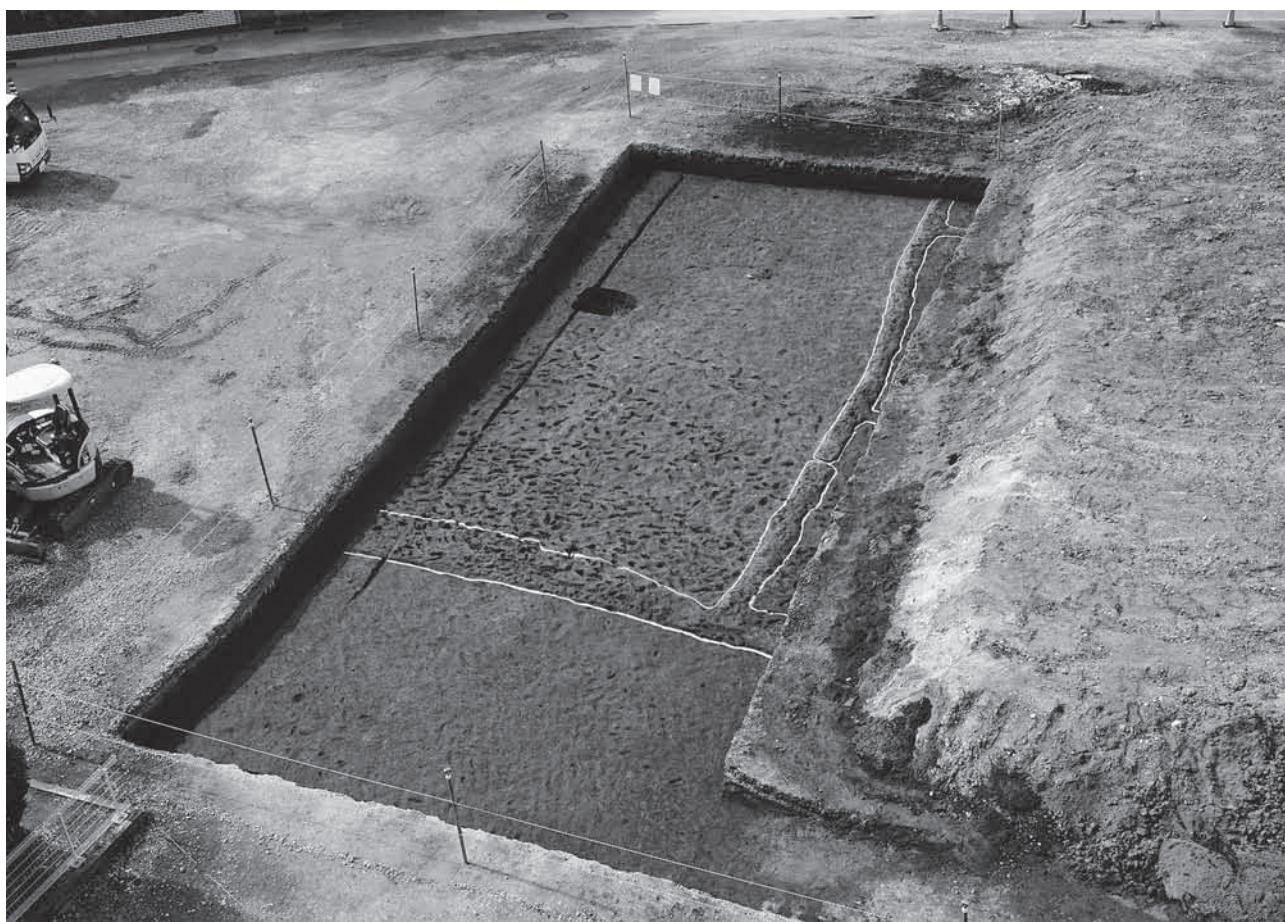
高崎市文化財調査報告書第366集 『井野高縄遺跡2』2016 高崎市教育委員会

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第253集 『井野屋敷前遺跡』1999 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

写真図版



調査区遠景（東から）



調査区全景（北東から）



SL4 足跡・耕作具痕検出（北東から）



SJ1 検出（北から）



SJ2 検出（東から）



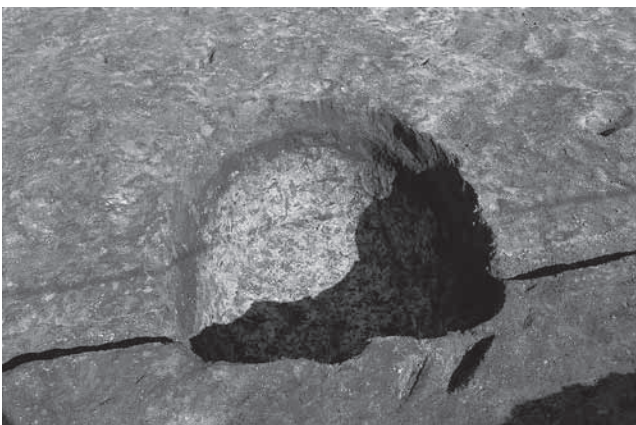
SJ2 水口検出（北から）



SJ3 検出（北から）



SJ4 検出（西から）



SK1 完掘（南から）



作業風景

報告書抄録

フリガナ	イノヤシキゾエイセキ
書名	井野屋敷添遺跡
副書名	貸事務所建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第403集
編著者名	矢島 浩・菊池康一郎
編集機関	株式会社シン技術コンサル
所在地	〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井 311-1
発行年月日	2018年3月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
イノヤシキゾエイセキ 井野屋敷添 遺跡	タカサキシイノマチ 高崎市井野町 アザヤシキゾエイセキ 字屋敷添 1141番1	102024	714	36° 21' 08"	139° 01' 34"	2017.10.25 ～ 2017.11.2	198.0m ²	貸事務所 建築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
井野屋敷添 遺跡	生産地	平安時代	水田	なし	
	その他	中世以降	土坑	なし	
要約	高崎市井野町に位置し、1108（天明元）年に噴火した浅間山の火山灰で埋没した水田跡が検出された。南北方向の大畦畔を含む、複数の畦畔と水口が検出されたが、無数の足跡などで荒らされており、休耕田であった可能性が高い。				

井野屋敷添遺跡

—貸事務所建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成 30 年 3 月 30 日 印刷

平成 30 年 3 月 30 日 発行

編集・発行／高崎市教育委員会

高崎市高松町 35 番地 1

TEL 027-321-1291

印刷／細谷印刷株式会社
